（別紙4（2））

事業所名　元気ホーム北松戸

作成日：平成　29年　4月　30日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所及び法人の理念が明文化・掲示されてなく、ミーティング等で指導はしているがぼやけてしまいがち。	事業所（業種）単位での理念の作成・掲示・共有と実行。	法人としての理念は本部に存在しているのでそれを事業所別の業務に合わせて分化させ、役員と事業所職員の代表者等とで検討して理念の明文化を行い、各節目のミーティングで確認し合い業務に反映させる。	2ヵ月
2	36	詰所がオープンカウンターで見守りを行いながら申し送りをする為内容が利用者様に聞こえてしまいがちでプライバシーが守られにくい。 プライバシーの保護や接遇に関する自己評価のシステムがなく、その面での質の確保は各個人と管理職の裁量に委ねられている部分が大きい。	プライバシーの保護と接遇に関するサービスの質を担保する仕組みの作成と維持・向上。	現在職員会議でたまに取り上げて改善に取り組んでいる状態の本件について、定期的な見直しの仕組みとして職員による自己評価と管理者による評価と面談を年2回程度行う様な仕組みを作る。又その指針となる接遇マニュアルを充実させる。（ユマニチュードをベースとする）	4ヵ月
3	6	ベッド柵を両側に付けているケースが2件あることと玄関の施錠が行われていることが拘束に当たる。いずれも訴えに応じて職員の見守り下で移動可能としているが、十分とはいえない。	ベッド柵については代案を検討。安全確保と移動の自由の確保を両立できる方法をリスク管理しながら行う。 玄関の施錠は行方不明者が発生したこともある為解除には慎重にならざるを得ないが、帰宅願望や徘徊に対しては柔軟に対応していく	柵に代わる安全確保の方法を本人・介護職・計画作成担当者・家族など複数の立場から検討する会議を設け、基本的に柵をしない方向で進める。 玄関については地域や市役所、警察との関係も無視できず、施錠していない同業者のアドバイスも受けていく。	4ヵ月
4	11	職員会議の記録が少なく、過去どの様に話し合って決定がなされ、現在どの様な形で業務遂行するべきとしているか文章がまとまっていない。このことが業務内容や方針の共有の妨げとなっている。	記録の整備とそれを閲覧し周知するしくみにより各職員が業務内容や方針の共有をスムーズに行える様にする。	会議録の早急な整備。記録内容の回覧とサインの施行。議案ノートにより会議の事前に意見聴取が行える様にする。会議録担当者の回り持ち制により全員が記録に関わって意識向上を図る。	2ヵ月
5	35	避難訓練に関する記録が乏しく、何をどの様に行ってどんな問題が見つかったのか、何が改善されたのかなどがはっきり分からない。又避難方法の共有がとぼしく、職員によりばらつきが大きいと思われる。	避難訓練記録により、次回に向けた課題の発見から訓練内容の検討、実施後の反省と職員間の共有までがスムーズに行える様にする。	従来の実施記録の整備と今後の記録の仕組み（用紙作成や担当者の回り持ち制など）の作成。訓練後の反省会（職員会議にて）を実施し、避難方法を記したマニュアルと避難等に関する設備などを定期的に見直す仕組みを作る。	4ヵ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。